

マスツーリズムの歴史的変遷と今後の行方

— マスツーリズムに終焉はない —

てしま やすゆき
手島 廉幸

流通経済大学非常勤講師 並びに 明海大学非常勤講師

Mass tourism consists of two factors, popularization and much volume of tourists. It is generally said that mass tourism in Japan began around 1960~70. However, it has not appeared suddenly. There is a strong basement. It is popularization of tourism which had already begun in Meiji period. I have clarified the background of the popularization historically. Since 1990 around, the mass tourism has been changing little by little in the content but the total number of tourists still continues to increase. I still call it "mass tourism". Lastly, I would express my view that the mass tourism will not be ended for ever and can be alive keeping balance with the protection of environments.

1. はじめに

1-1 マスツーリズムの一般的概念

マスツーリズム (Mass Tourism) とは観光の大衆化であり大量の観光客が発生する現象をいう。もともと暇と資産を有する富裕階級のみが享受できた観光が、大衆の経済力の向上、旅行の商品化の進展により大衆に普及していった。大衆=Mass=大量という概念がこの言葉の中には含まれている。マスツーリズムは、先進国から生じた現象である。具体的にはアメリカ、日本そして西ヨーロッパ諸国である。

マスツーリズムが発生した時期、またそれが進展していった時期はいつなのであろう。それは国によって異なる。わが国においては、一般的には1960年代から始まり1964年の海外旅行自由化、さらには1970年代のジャンボジェット機登場に象徴される大量輸送に裏づけられた観光と見られている。アメリカ、西ヨーロッパにおいてはわが国より10-20年早いといわれている。ここでは、我が国、日本を中心にして論を進めてゆくことにする。

よくマスツーリズムの弊害として、大量化した観光に伴って引き起こされる環境破壊、不適切な観光施設、観光の主体たる大衆の消極的な行動などが挙げられる。しかし大衆化そのものは非難されるべきもので

はなく、健全な形で、先進国から発展途上国へと世界的に波及していくべきものである。大衆が経済力を得て観光の楽しみを得て量的に大きな力となってゆく、それがマスツーリズムなのである。

経済的に成熟した先進国であるわが国においてマスツーリズムにいかに変容してきたか、又、今後どのような足跡を辿ろうとしているのかを分析しマスツーリズムと何なのかとの結論を得たい。

1-2 国内観光と国際観光

マスツーリズムの変遷を分析するには、まず、日本における旅行者数の実績の経緯

を国内、国際別に見る必要がある。以下に示す図は1965年(昭和40年)以降の旅行者数の変遷を国内、国際別に示したものである。(下記図1、2参照) これらの図を見て注意しなければならないのは図1の国内宿泊観光旅行者数の単位は100万人、図2の海外旅行者数の単位は、1万人でグラフの単位が大きく違う点である。国内については1965年ですでに5100万人という数に上っておりこれは国際観光のピークの年2000年の1782万人よりはるかに大きい数字である。

図1. 国内宿泊観光旅行者数の変遷



